

本時のねらい

・いろいろな数量を文字を使った式で表し、文字にいろいろな値を代入して式の値を求めることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・ロイノードで問題を配付することで、自分のレベルに合った問題を選択しやすくする。
・班で画面を共有しながら、協働活動をする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・授業支援ソフト（ロイノード） ・オンライン学習サービス（eライブラリ）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時の復習 ○小テスト めあて：前時を振り返り、数や文字を使った表現について確認する。【写真1】	○eライブラリのドリルで既習事項の確認をする。
展開 (40分)	○例題プリントをロイノードで配付し、文字式の約束や数量の表現、読み取りの要点について確認する。 ○ロイノードで配付した問題プリントや プラス問題（レベル別問題）に取り組む。 ○班の形で取り組み、分からない所を質問したり、早く課題を終えた生徒が分からない生徒に画面を見ながら教えたりする。【写真2】 ○答え合わせをする。【写真3】	○ロイノードで作成した解説を大型モニターで提示し、着色や手書きで書き入れながら分かりやすくする。 ○ロイノードで問題を配付。基礎・標準・発展の3つのレベルを準備し自分で選択して取り組めるようにする。 ○画面に書き込んで問題を解いたり、教え合ったりする。 ○ロイノードで解答を配付。各自で答え合わせをする。
まとめ (5分)	○頻出の問題や間違いやすい問題を、生徒の解答例などを提示して解説する。	・大型モニターで提示しながら、解答例を共有する。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】eライブラリのドリルで既習事項の確認をしている様子。



【写真2】問題を解いて、班で教え合ったり、自分に合ったプラス問題を解いたりしている様子。



【写真3】画面を見て答え合わせをしている様子。

児童生徒の反応や変容

・全員同じ問題の他に、レベル別のプラス問題を用意し、自分の状況に合わせて選択できるようにすることで、全員が意欲的に取り組むことができた。
・授業内でロイノードに解答や問題を送ることで、家庭学習でも振り返りに活用できるようになった。また、授業中に取り組めなかったレベルの問題にも自主的に家庭で取り組めるようになった。
・また、ロイノードに授業の問題や解答・解説を送ることで、欠席した生徒の支援にも役立っている。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・ロイノードで演習問題を用意することで、生徒に課題を明確に提示するだけでなく、教師もそれぞれの実施状況を確認し、個別の指導・援助をすることが容易になる。
・問題や回答を共有することに時間を取らないため、その分、生徒が課題に取り組んだり、生徒同士で協働したりする時間を確保することができる。